

# 取扱説明書

この取扱説明書はご使用になる前に必ずお読みください

## 歩行車 ストリーム オービー



### 【目次】

1. 各部の名称と部品の確認	2
2. 安全に関するご注意	3
3. 歩行車の組み立て・使い方・調節	6
<1> 車体のひろげ方・折りたたみ方	6
<2> ハンドルの高さ調節	8
<3> ハンドルブレーキの操作方法	9
<4> バッグの使い方	9
<5> バッグの取り外し方・取り付け方	10
<6> 腰掛け方・立ち上がり方	10
<7> 杖の固定のしかた	11
4. ブレーキの調節方法	12
5. ご使用前の点検	13
6. お手入れの方法	13
7. 保管方法	13
8. 点検・保守	14
9. こんな時は	14
10. 仕様	15
11. 廃棄	15
12. 保証とアフターサービス	15
保証書	16

このたびは、インタージェットの歩行車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。  
この取扱説明書は、製品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。  
介護される方も一緒にお読みいただき、正しく安全な取扱方法をご理解のうえ、ご使用ください。

取扱説明書はお読みになられた後も、いつでも見られるところに保管してください。  
また、ご不明な点がございましたら、お買い求めの販売店、または弊社までお問い合わせください。  
本製品は改良などの仕様変更により、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。

# 1. 各部の名称と部品の確認

## 各部の名称



- ① ブレーキレバー（左右） 駐車ブレーキ …… ブレーキをかける時は握ってください。  
………… レバーを押し下げると駐車ブレーキがかかります。
- ② ハンドルグリップ（左右） …… 歩行する際に握る部分です。
- ③ 背もたれベルト …… 座面に腰掛ける際に使います。固定式で上下に可動はしません。
- ④ バッグ …… 容量約 17ℓ の大型バッグで取り外しができます。5kg まで荷物が収納できます。
- ⑤ 前輪（左右） …… 自在に旋回し方向転換ができます。
- ⑥ 杖用ホルダー …… 杖を収納、持ち運びする際に、杖の先端部を収納するホルダーです。取り外しができます。
- ⑦ ブレーキ調節ネジ（左右） …… オレンジ色の調節ネジでブレーキの効き具合を調節します。
- ⑧ 後輪（左右） …… 旋回しない車輪です。横すべりを防止します。
- ⑨ ブレーキ部（左右） …… ブレーキ金具で車輪を押し付け、ブレーキがかかります。
- ⑩ シート折りたたみ固定ロック …… 車体の折りたたみを固定する際に使用します。
- ⑪ シート …… 車体を左右に押し広げると座面が広がり、座れます。
- ⑫ 背もたれベルト固定ボルト・ナット（左右） …… 背もたれベルトを本体に固定するボルトとナットです。
- ⑬ ハンドル高さ調節ボルト（左右） …… ハンドルの高さを調節する際に使います。6段階調節できます。
- ⑭ 杖用ストラップ …… 杖用ホルダーと杖用ストラップを使い、杖の収納、持ち運びができます。取り外しができます。
- ⑮ シート折りたたみベルト …… 車体を折りたたむ際に使用します。

## 部品の確認



本体 × 1



バッグ × 1



取扱説明書 × 1



杖用ホルダー × 1



杖用ストラップ × 1

## 2. 安全に関するご注意

\*ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

\*ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他人の危害を未然に防止する為のものです。

[ 表示マークの説明 ] \*正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

<b>警告</b>	取り扱いを誤った場合に死亡または重傷にいたる可能性が想定される事を示しています。
<b>注意</b>	取り扱いを誤った場合に、傷害にいたる可能性または物的損害の発生が想定される事を示しています。
<b>禁止</b>	してはいけないこと（禁止内容）を示しています。
<b>必ず守る</b>	必ずしなければならないことを示しています。

# 警告

(生命にかかわるケガをする恐れが想定される内容を示しています。)

## 禁止

- この製品は、自立歩行を補助する為の「歩行車」です。それ以外の用途には使用しないでください。
- この製品は体重100kgを超える方が使用されると、本体が破損・変形してケガをする恐れがあります。この製品の耐荷重(最大使用者体重)を超える方は、使用しないでください。
- 転倒してケガをする恐れがありますので、歩行が大変困難な方、正しく操作ができない方(認知症や小さなお子さまなど)には使用させないでください。
- 駐車ブレーキをかけない状態で、歩行車から離れないでください。歩行車が動いて事故やケガをする恐れがあります。歩行車の周りの物を取るときや、休憩などで歩行車から離れる場合は、必ず左右の駐車ブレーキを確実にかけてください。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行したり、引きずったりしないでください。転倒し、ケガをする原因となります。
- 走行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し、転倒する恐れがあります。走行中にブレーキをかける時は、必ず両手でハンドルを握って、左右両側のブレーキを同時にかけてください。
- 片側のみに重心を掛けて使用しないで下さい。バランスを崩し転倒してケガをする恐れがあります。
- バッグの中以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないで下さい。重心が不安定になり、転倒してケガをする恐れがあります。
- 背もたれベルトを引っ張って車体を動かしたり、上に引っ張って車体を折りたたまないでください。背もたれベルトが折れ曲がったり、破損する恐れがあります。
- 背もたれベルトに手や肘をついて身体を支えないでください。また、背もたれベルトを持ってシートから立ち上がらないでください。バランスをくずして転倒し、けがの原因になります。
- 屋外に放置しないでください。サビなどにより製品が劣化します。保管は屋内で行ってください。
- 歩行車を火気に近づけないでください。プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。熱湯消毒についても同様です。
- 絶対に改造・分解をしないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故の原因となります。
- 段差を決して勢いをつけて乗り越えないでください。転倒しケガをする恐れがあり、大変危険です。フレーム及び車輪等の損傷の原因となります。段差の前では一旦停止して前輪を持ち上げて乗り越えてください。
- シートに人を乗せたまま移動しないでください。車体が転倒し、けがの原因になります。
- 複数の人数で使用しないでください。この歩行車は一人用です。破損・事故の原因となります。
- ブレーキレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
- 介助者は車輪の向きを変えるなど、利用者の意図していない無理な力をかけて歩行補助をしないでください。
- 歩行車を投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 大きな段差のある場所・階段では使用しないでください。
- 坂道や傾斜のあるところで駐車しないでください。安定性が悪くなり、転倒の恐れがあり大変危険です。傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があり、大変危険です。滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があります。
- 踏み切りを横断の際は、斜めの角度で進入しないでください。車輪がレールの溝にはさまる可能性があります。必ず介助者と渡ってください。

## 必ず守る

- 道路通行の際は、必ず右側通行をしてください。また、歩道を通行してください。
- ご使用になる前には、14ページの「点検・保守」をよくお読みいただき、点検を行ってください。確認を行わず、正しく作動しない状態でお使いいただくと、転倒やけがの原因となります。

## ⚠ 注意



禁止

- 可動部（車輪、ブレーキ、ハンドル高さ調節ボルト、シート折りたたみ部など）に手を挟まないようにしてください。けがの原因となります。
- 走行する際には片手で操作しないでください。傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。ハンドルは必ず両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。
- バッグには、5kg以上の荷物は入れないでください。また鋭利なもの、乳幼児やペットを入れしないでください。破損や思わぬ事故の原因となります。
- フレームに足をかけたり、乗った状態で使用しないでください。フレームの破損、転倒の原因となります。
- 下記のようなところに歩行車や部品を放置しないでください。
  - ・車道に近いところ
  - ・人通りのあるところ
  - ・路面に段差や凹凸があるところ
  - ・湿気の多いところ
  - ・雨風の当たるところ
  - ・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
  - ・直射日光の当たるところ
  - ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
  - ・ほこりの多い場所
  - ・子どもがいたずらをする恐れのある場所
  - ・非常口、消火器、消火栓の前
  - ・坂道
  - ・暑い日や寒い日の屋外（事故やサビ・破損の原因となります。）



必ず守る


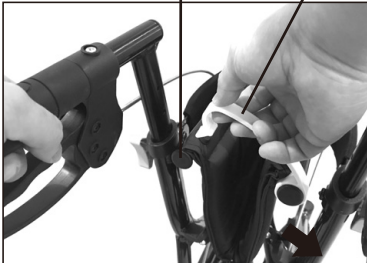


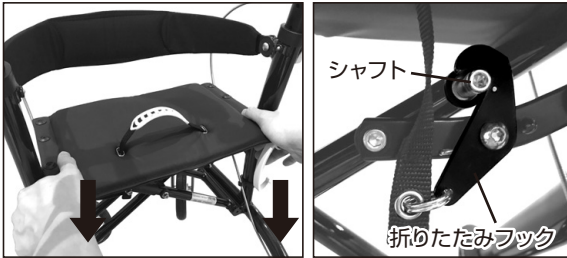

- ハンドルの高さは、必ず左右同じ高さにしてください。
- ブレーキは必ず手で操作してください。他の物でブレーキ操作しないでください。
- 回転している車輪に指等を差し込まないように注意してください。
- 傾斜地での走行は、歩行車が予想外の方向に進むなど大変危険です。また転倒の原因となります。十分に注意して走行してください。
- 雨ざらしにしたり、雨・雪の日の使用、ぬかるみ、水たまり等のある場所でのご使用はお避けください。車輪のサビ等により故障の原因となります。
- 次のような場所・状況でのご使用は危険です。使用を避けるか、介助者に同行してもらってください。
  - ・エスカレータ
  - ・階段
  - ・坂道
  - ・ぬかるみ
  - ・踏み切り
  - ・交通量の多い道路
  - ・防止柵のない側溝や路肩付近など
  - ・凹凸の激しい道
  - ・夜間、雨や雪、風の強い日
  - ・凍結路
  - ・深い砂利道や砂道
  - ・その他危険が予想される場所
- 夜間や、降雨時は通行者や車から発見しにくくなります。十分にご注意ください。
- 発進するときや段差を乗り越えるときには、車輪が真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
  - ・斜めに進入したり、車輪が斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、車輪の破損や車輪からタイヤが外れる原因になったり、事故の原因となる恐れがあり大変危険です。
- 正しく操作が出来ない方は使用しないでください。



### 3. 歩行車の組み立て・使い方・調節

#### < 1 > 車体のひろげ方・折りたたみ方

##### 車体のひろげ方

- 
- ①左右両方のブレーキレバーをカチッと音が鳴るまで押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。
- 
- シートパイプ シート折りたたみ固定ロック
- ②シート折りたたみ固定ロックをシートパイプから外し、折りたたみ固定を解除します。
- 
- ③歩行車の後方に立ち、左右のハンドルグリップを持って両側に開きます。
- 
- ④両手でシートの両端を、カチッとロック音が鳴るまで確実に押し下げます。
- 
- シャフト 折りたたみフック
- ⑤カチッというロック音は、折りたたみフックがシャフトにかかる際の音です。折りたたみフックがシャフトにかかり、本体が開ききっているか確認してください。
- 
- ※シートを押し下げの際は、シートパイプの横や下に手や指を置かないようにしてください。手や指が挟まり、けがをする恐れがあります。

#### ⚠ 注意

- ・車体を広げる前に必ず左右両方のブレーキレバーを押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。
- ・シートを押し下げの際は、シートパイプの横や下に手や指を置かないようにしてください。  
⇒手や指が挟まり、けがをする恐れがあります。

##### シートに座る前に

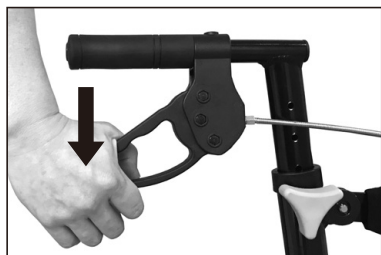


シートパイプがパイプ受けにセットされていることを確認してください。



シートパイプがパイプ受けにセットされていることを確認してください。

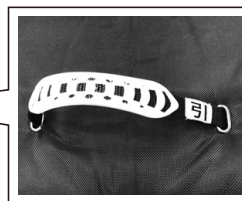
## 車体の折りたたみ方



①左右両方のブレーキレバーをカチッと音が鳴るまで押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。



②「引」マークのついた折りたたみベルト右端を持ち、上方向に引っ張ります。



### ポイント

ハンドルを低くすることによって、よりコンパクトに収納することができます。



シート折りたたみ  
固定ロック

シートパイプ

③両側のハンドルを持ち、内側に押したたみます。シート折りたたみ固定ロックをシートパイプに引っかけて固定します。

**注意**




背もたれベルトを引っ張って車体を動かしたり、上に引っ張って車体を折りたたまないでください。背もたれベルトが折れ曲がったり、破損する恐れがあります。

**注意**

- ・ 車体を折りたたむ前に必ず左右両方のブレーキを押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。
- ・ 折りたたむ際は、必ず両側のハンドルで折りたたんでください。  
⇒シートパイプを使ったの折りたたみは、手や指を挟むなどの危険があり、けがをする恐れがあります。
- ・ 保管時はシート折りたたみロックでしっかりと固定してください。

## <2>ハンドルの高さ調節

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さ調節ボルトの取り付けは、本体フレームの外側から内側に向け差し込んで締めてください。誤って内側から無理に締め付けようとするとうボルトが破損し、故障の原因となりますので正しく取り付けてください。</li> <li>・ハンドルの高さを調節する前に左右両側の駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ハンドル高さは、76 cm～ 91cm の範囲で、6 段階の調節ができます。  
出荷時は一番低い高さに設定されています。



①高さ調節ボルトを右（時計回り）に廻し、ボルトを締めてください。







②高さは6段階に調節できます。適切な高さで確実に締め付けてください。

③左右のハンドルが同じ高さであるか、確認してください。

④締め付け後は、ハンドルが上下左右に動かないことを確認してください。

⑤再調節にてハンドルの高さを変える場合は、高さ調節ボルトを左（反時計回り）に廻し、抜いてください。適切な高さに差し込み、①～④を繰り返します。

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背もたれベルトをはずした状態で使用しないでください。 ⇒着座時に転倒し、ケガの原因となります。</li> <li>・背もたれベルト固定ボルト・ナットは、左右ゆるみがないか必ず確認してください。 ⇒ゆるんでいると、着座時に背もたれベルトがはずれ、ケガの原因となります。</li> <li>・高さ調節ボルトは、必ず左右同じ高さ位置にて固定してください。</li> </ul>
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドルの高さに応じて、その都度ブレーキの効きを確認してください。ハンドルの高さ調節を行なった後、ブレーキの効きが弱い場合はブレーキの調節を行ってください。</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <span style="background-color: #ccc; padding: 5px 10px;">詳しくは…P.12「ブレーキの調節方法」へ</span>  </div>
 <b>必ず守る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左右の駐車ブレーキを確実にかけてから、ハンドルの高さ調節を行ってください。</li> </ul>



## <3>ハンドルブレーキの操作方法

### 1. ブレーキのかけ方



- ブレーキレバーに指をかけ、強く握るとブレーキが効きます。
- ブレーキをかけたときに左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。
- 握った指を離すとレバーは元に戻り、ブレーキが解除されます。

### 2. 駐車ブレーキのかけ方



- ブレーキレバーをカチッと鳴るまで押し下げる。駐車ブレーキがかかり、後輪がロックされます。
- ブレーキをかけたときに左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。
- 駐車ブレーキを解除したいときは、再度レバーを引き上げると解除されます。

<b>⚠ 警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。 ⇒反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し、転倒する恐れがあります。走行中にブレーキをかける時は、必ず両手でハンドルを握って、左右両側のブレーキを同時にかけてください。</li> <li>・駐車ブレーキをかけたまま走行したり、引きずったりしないでください。 ⇒転倒し、けがをする原因となります。</li> </ul>
<b>⚠ 注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーキ操作の時に、ハンドルグリップとブレーキレバーの間に指を入れないでください。 ⇒指をはさんでけがをする恐れがあります。</li> <li>・傾斜地では駐車しないでください。 ⇒傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があります、大変危険です。</li> </ul>

## <4>バッグの使い方



①バッグを使用する際はカバーを開閉してご使用ください。

<注記>バッグの最大積載量は5kgです。

### ⚠ 警告

- ・バッグに乳幼児やペットなどを入れないでください。  
⇒転落・転倒によりけがをしたり、歩行車が破損・変形する恐れがあります。
- ・バッグの中には5kg以上のものを入れないでください。  
⇒歩行しづらだけでなく、転倒してけがをしたり、歩行車やバッグが変形・破損する恐れがあります。

## <5> バッグの取り外し方・取り付け方

### 1. 取り外し方



①左右両方のブレーキレバーをカチッと音が鳴るまで押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。



②シート上のシート折りたたみベルトを少し持ち上げ、歩行車を少し折りたたんだ状態にします。



③歩行車前方に回り、バッグを斜め上にスライドさせてください。

### 2. 取り付け方



①左右両方のブレーキレバーをカチッと音が鳴るまで押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。



②歩行車前方に回り、バッグ側のスライド溝とフレーム側のガイドの溝を合わせてください。



③最後まで斜め下にスライドしてください。バッグが奥までスライドされているか確認してください。

## <6> 腰掛け方・立ち上がり方



### ■腰掛け方

- ①本体が動かないように、必ず左右両側の駐車ブレーキをかけてください。(9ページ2.「駐車ブレーキのかけ方」参照)
- ②しっかりと駐車ブレーキがかかった状態であることを確かめてから両手でハンドルを握り、体の安全を保ちながらゆっくりと座面に腰をおろしてください。



### ■立ち上がり方

- ①本体が動かないように、必ず左右両側の駐車ブレーキをかけてください。(9ページ2.「駐車ブレーキのかけ方」参照)
- ②両手でハンドルを握ってください。
- ③体を支え、本体が動かないことを確かめながら、ゆっくりと立ち上がってください。

### ！必ず守る

- ・座面に座るときは、必ず左右の駐車ブレーキをかけた状態にしてください。  
⇒駐車ブレーキがかかっていないと歩行車が動き、けがをする恐れがあります。
- ・立ち上がる際は、必ず駐車ブレーキがかかっているか確認してください。

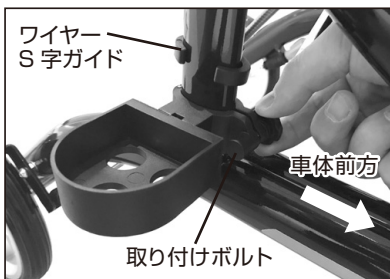
<p><b>警告</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂道や傾斜のあるところでは、絶対に腰掛けないでください。 ⇒転倒のおそれがあり、大変危険です。</li> <li>・ハンドルの片方だけに力を入れて立ち上がろうとするとバランスを崩し、転倒し、けがをする恐れがあります。</li> <li>・歩行車を後方へ押し出すように立ち上がらないでください。 ⇒歩行車が動き、けがをする恐れがあります。</li> </ul>
<p><b>注意</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐荷重（使用者最大体重）は100kgです。それ以上の体重の方はご使用になれません。</li> <li>・すべりやすい床面ではブレーキが効かず、動くことがありますのでご注意ください。</li> <li>・シートに座る場合は、シートに無理な力を加えないでください。 ⇒シートが破損する恐れがあります。</li> </ul>

**注意**



背もたれベルトを持ってシートから立ち上がらないでください。また背もたれベルトに手や肘をついて身体を支えないでください。背もたれベルトが折れ曲がったり、破損する恐れがあります。バランスをくずして転倒し、けがの原因になります。

## ＜7＞杖の固定のしかた



①杖用ホルダーを取り付けてください。左右のフレームどちら側でも取り付けられます。ホルダー取付位置は、ワイヤーS字ガイドの下です。取り付けボルトは車体前方位置になるようにセットしてください。取り付けボルトは緩みがないよう、しっかりと締めてください。



②杖用ストラップをハンドルポストに取付けてください。ホックをパチッと音がするまではめ込み、外れないか確認してください。



③杖用ホルダーに杖の先端を収納してください。



④杖をストラップで巻きつけ、マジックテープで留めてください。杖がハンドルポストにしっかりと固定されているか確認してください。

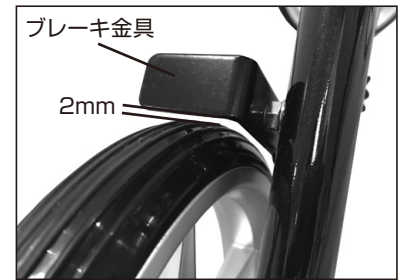
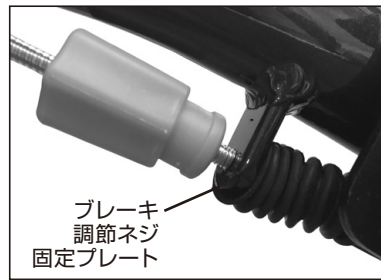
### 杖を取り付けた状態



**注意**

・杖の先端は確実に杖用ホルダーに収納されているか確認してください。  
⇒車体や前輪にはさまると歩行中にブレーキがかかり、転倒する恐れがあります。

## 4. ブレーキの調節方法





### ブレーキの効きを強くするとき

<ブレーキ調節前に先ずハンドルの高さ調節・設定を行ってください>

⇒ハンドルの高さ調節位置によって、ブレーキの効き具合の変化が生じます。

- ブレーキ調節ネジを下に押しながら、反時計回りの方向にまわし、ブレーキ部内のブレーキ金具のすき間を調節します。
- 車輪とブレーキ金具のすき間が約2mm になったところが調節の目安です。

\*ブレーキ調節を行っても改善されない場合は、お買い求めの販売店までお問い合わせください。

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーキ調節ネジを時計回りの方向にまわすと、ブレーキの効きが弱くなります。</li> <li>・ブレーキ金具と車輪とのすき間が約2mm になるように調節をしてください。</li> <li>・ブレーキ調節後は必ずブレーキレバーを操作し、ブレーキが確実に効くことを確認してください。</li> <li>・ハンドルの高さ調節を行なったあと、その都度ブレーキ調節を行い、ブレーキが確実に効くことを確認してください。</li> </ul>
 <b>警告</b>	<p><b>ブレーキ調節前に次の事を必ず確認してください。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーキ調節前に先ずハンドルの高さ調節・設定を行ってください。 ⇒ハンドルの高さ調節位置によって、ブレーキの効き具合の変化が生じます。</li> <li>・ハンドルの高さ調節・設定において、ブレーキ調節は毎回行い、効き具合を確認してください。 ⇒ハンドルの高さに応じたブレーキ調節を行なわなかった場合、ブレーキが効かなくなり、大変危険です。事故につながりますので、ご使用前にハンドル高さ調節を行った場合は、必ずブレーキの効き具合を確認、調節してください。</li> </ul>



## 5. ご使用前の点検

歩行車を使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

### ●装着品の確認

- ・バッグは斜め下奥までスライドされた状態で、しっかりと取り付けられていますか？
- ・杖用ホルダーは取り付けボルトでしっかりと締め付けられ、固定されていますか？
- ・杖用ストラップはホックがしっかりとはめこまれ、ハンドルポストに固定されていますか？

### ●ハンドルの確認

- ・ハンドルの高さ位置は左右同じですか？
- ・ハンドル高さ調節ボルトは左右緩みが無いようしっかりと締め付け、固定されていますか？

### ●ブレーキの確認

- ・ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？効きは弱くないですか？
- ・駐車ブレーキをかけた状態で、後輪にしっかりと駐車ロックがかかっていますか？

### ●車輪

- ・車軸にしっかりと固定されていますか？
- ・スムーズに回転しますか？
- ・タイヤは磨耗していませんか？

### ●その他全般

- ・ガタツキはありませんか？
- ・まっすぐに走行できますか？
- ・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- ・ワイヤーが部品等に引っかかっていますか？



**注意**

確認を行わず、正しく作動しない状態でお使いいただくと、転倒やけがの原因となります。

## 6. お手入れの方法

- 汚れの除去は、市販の中性洗剤を布に染み込ませ拭き取ってください。本体の水気は乾いた布でふきとり、日陰で乾燥させてください。
- バッグは洗濯しないでください。汚れが目立つ場合は、柔らかい布で拭き取ってください。日陰で乾燥させてください。
- フレーム（車体）や車輪についた泥や砂を放置したままにしないで、必ず落としてください。
- よく絞った布で、土やほこりを拭き取ってください。
- 雨水に濡れたら、それらの水気を十分に拭き取ってください。乾いた布で水分をとり日陰で乾燥させてください。



**注意**

- ・シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。⇒変質・変色・傷みの原因となります。
- ・たわし、みがき粉、硬いブラシは使用しないでください。⇒傷みの原因となります。
- ・熱湯で洗浄しないでください。⇒変質・変色の原因となります。

## 7. 保管方法

- 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。また長期間で使用にならない時は汚れを落とし、歩行車を折りたたんだ上、日陰で保管してください。
- 寒いとき、暑いときには屋外に置かないでください。バッグの変色、硬化の原因になる恐れがあります。
- 潮風の当たる場所、直射日光の当たる場所に保管せず、必ず屋内で保管してください。変形・変質・サビなどの原因となります。
- 下記のようなところに歩行車や部品を放置しないでください。（事故やサビ、破損の原因となります。）
  - ・車道に近いところ
  - ・人通りのあるところ
  - ・路面に段差や凹凸のあるところ
  - ・湿気の多いところ
  - ・ほこりの多い場所
  - ・子どもがいたずらをするおそれのある場所
  - ・非常口、消火器、消火栓の前
  - ・坂道や傾斜地



## 8. 点検・保守

●ハンドルのしっかりと固定されていますか？

⇒ハンドルの高さ調節ボルト(左右)を締めこんだとき、しっかりと固定されているか確認してください。

●高さ調節ボルト(左右)がゆるんだ状態で歩行車を使わないでください。

⇒高さ調節ボルト(左右)は、確実に締め付けた上でご使用ください。ゆるんだ状態で使用されますと、高さ調節ボルトがはずれ、歩行車がバランスを崩すことになり、転倒しけがをする恐れがあります。

●ネジ、ボルト、ナットの緩みはありませんか？

⇒ネジ、ボルト、ナットの緩みがないことを確認してください。緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐ緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止めいただき、すぐにお買い求めの販売店、又は弊社にご連絡ください。

●ブレーキはしっかりと効きますか？

⇒ご使用前には必ずブレーキの効き具合を確認し、効きが悪いときにはご使用をお止めいただき、すぐにお買い求めの販売店、又は弊社にご連絡ください。

●各車輪が地面にしっかりと接地していますか？

⇒平らな場所で四輪すべての車輪が接地していることを確認してください。四輪すべてが接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。

●車輪の変形や磨耗はありませんか？

⇒各車輪がスムーズに回転するか、ごみが付着していないか、前輪がスムーズに首振りするかを確認してください。

●ハンドルグリップは固定されていますか？

⇒ご使用前には必ずハンドルグリップがしっかりと固定されているかを確認してください。

●音鳴りがしませんか？

⇒異音がする場合、どこでその音が発生しているかを確認してください。原因が不明な場合は、お買い求めの販売店、又は弊社にご連絡ください。

●消耗部品の交換は必要ですか？

⇒車輪、ブレーキワイヤー等は消耗部品です。消耗部品の磨耗がないか確認し、異常や磨耗が発見された場合には交換してください。(消耗品については、15 ページ「保証とアフターサービス」項目4、消耗部品をご覧ください。)



**注意**

異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して、お買い求めの販売店、又は弊社へご相談ください。

## 9. こんな時は

状況	原因	対処方法
ブレーキ、 駐車ブレーキが 効かない	ブレーキワイヤーの断線や折れ曲がり	ブレーキワイヤーの交換 (お買い求めの販売店へ)
	ブレーキ金具の位置ずれ	ブレーキ調節ネジを回し車輪とブレーキ金具 のすき間調節を行ってください。
	タイヤの摩耗	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
	ブレーキ金具のねじれ、曲がり	ねじれ、曲がりを修正してください。
	車輪の破損	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
ハンドルが ぐらぐら動く	ハンドル高さ調節部がきちんと 固定されていない	ハンドル高さ調節ボルトが車体外側から差し 込み穴にセットされているか、しっかりと締 め付けられているか、確認してください。
車輪の回転がスムーズ でない。直進性も悪い	車輪の片べりや損傷	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
水平な場所でも歩行車 全体が前後左右に傾く	タイヤの摩耗	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)



**注意**

破損・異常が発生した場合は、そのまま使用せずお買い求めの販売店にご連絡の上、点検・修理をお受けください。

## 10. 仕様

項目	仕様	
名称 (型名)	ストリーム オーバー (OB-20A)	
全幅	51cm	
全長	72cm	
全高	76 ~ 91cm	
折りたたみ幅	25cm	
ハンドル高さ	76 ~ 91cm (30mm ピッチ、6段階調節)	
ハンドル内幅	39cm	
シート高さ	50cm	
シート寸法	幅37 X 奥行24cm	
重量	6.9kg	
車輪径 (前輪・後輪)	20cm	
バッグ寸法	幅31 X 奥行19 X 深さ30cm (前面球形) 約17ℓ	
耐荷重 (最大使用者体重)	100kg	
制動 兼 駐車ブレーキ	ループブレーキレバー タイヤ押付式	
材質	本体フレーム	アルミ
	ハンドグリップ	熱可塑性エラストマー (TPR)
	車輪 (キャスト)	タイヤ: EVA 樹脂、ホイール: ポリプロピレン (PP)
	バッグ	ナイロン
	座面	ナイロン

\*記載の重量や寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

## 11. 廃棄

各自治体により分別方法が異なることがありますので、それぞれの指示に従って処分や廃棄を行なってください。

## 12. 保証とアフターサービス

### 1. 保証書

この製品には保証書をお付けしております。

<ご注意>弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、  
無償にて修理を行うことをお約束するものです。

### 2. 保証対象とその期間

お買い上げ日より1年間 (消耗部品を除く本体)

### 3. 保証期間後

お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理させていただきます。

### 4. 消耗部品

・車輪 ・ブレーキ式 ・背もたれベルト ・シート ・ベアリング ・ハンドグリップ  
・バッグ ・ハンドル高さ調節ボルト ・杖用ホルダー ・杖用ストラップ

### 5. 補修部品の最低保有期間

弊社はこの商品の本体製造打ち切り後、5年間保有しています。

補修用部品とは、消耗部品を含むその製品の機能を維持するために必要な部品です。

### 6. 本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡しください。購入された方以外の不特定多数の方がご利用になる場合は、保証対象外となります。

### 7. 一度使用したものは、原則として製品のお取替えはできません。

<お願い>異常や不具合が見つかったら使用を中止して、すぐにお買い求めの販売店までご連絡ください。

# 歩行車 ストリーム オービー 保証書

取扱説明書の記載内容に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。  
製品と本書をご持参のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。  
製品の保管場所での出張修理や製品輸送の場合は、出張料や輸送費などの実費を申し受けます。

品名	ストリーム オービー	型名	OB-20A
※お買い上げ日	年 月 日		
保証期間と保証対象	本体お買い上げ日より 1年		
※お客様お名前		お電話番号	
ご住所	〒		
※販売店名			
ご住所	〒		

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

## <ご注意>

- 保証の適用除外となる場合（保証期間内であっても次の場合には有償修理となります）
  - ①製品の本来の使用目的に従わずして生じた故障・破損。
  - ②改造や不当な修理による故障および損傷。
  - ③弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損。
  - ④ご使用による消耗品および取扱不注意による破損。
  - ⑤火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、煙害、ガス害（硫化ガスなど）、などによる故障および損傷。
  - ⑥お取り扱いの不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損。
  - ⑦一般に歩行車が通行しない場所、または特殊な状態での使用による破損。
  - ⑧取扱説明書に従わずして生じた故障破損。
  - ⑨取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障破損。
  - ⑩本書にお買い上げ年月日、お客様名および販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 2、本書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
- 3、本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は、再発行いたしませんので、大切に保存・保管してください。

\*お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

\*この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。  
従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

IJ1806-OBV1

製造・発売元



株式会社 インタージェット AIJ福祉事業部

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目7-38 TEL:06-6393-3622 FAX:06-6393-3822

<http://www.aij-osaka.com>